

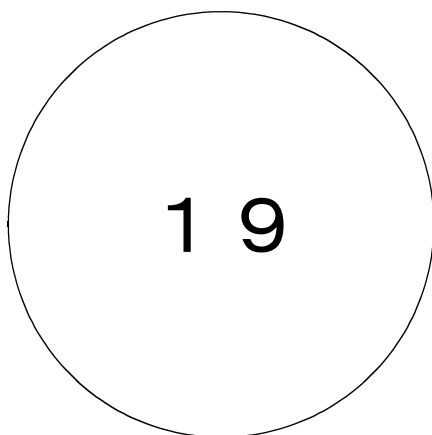
東山

山梨の大雪災害から学ぶ

～井尻地区の食料について考えよう～

- * 子どもの学びを地域に伝え、子どもたちの学びを広げる。
- * 学校と地域の連携が生み出す、ゆたかな学びを子どもたちに。

- I 研究の経過と概要
- II 実践報告
第5学年総合的な学習の時間における実践
- III 成果と課題



19

保護者・地域住民との提携

山連教東山梨地区

井尻小学校 中村 直人

I 研究の経過と概要

東山梨地区 保護者・地域住民との提携部会

1. 研究テーマ

「開かれた学校づくりをめざして」

子どもたちの抱えている問題やその背景にある社会・地域の課題を明確にしながら、子どもたちが一人の人間として社会的自立を果たしていくためには、学校・家庭・地域社会がそれぞれの責任を明確にするとともに、それぞれを補完し合いながら地域全体で子どもの成長を支えていくことが必要である。また、学校のあり方を見直し、「学校の地域社会への参画」や「地域の学校教育への参画」をめざし、「地域とともにある学校」＝「開かれた学校」づくりにとりくまなくてはならない。

近年、学校では、外部講師の依頼、保護者・地域住民などを対象に行う学校評価・授業評価、学校評議員制の流れを汲む組織の設置等、学校運営に関して外部の声を取り入れることが増えている。教育基本法には「学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を努めるものとする。」との規定（第13条）が置かれた。また、学校教育法では、「小学校は、当該小学校に関する保護者及び地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとする。」と定められた（第43条）。また、学習指導要領の中にも、学校・家庭・地域住民相互の連携及び協力の必要性が記されている。これらのことは学校と地域・社会・保護者との連携の必要性が高まっているからだと思われる。

学校は地域社会を離れて存在し得ないものであり、児童は家庭や地域社会で様々な経験を重ねて成長している。本研究会では「開かれた学校づくりをめざして」学校を開くことの意味を問いながら、地域・保護者との関わり方を学び、そのことが子どもの成長、学校の成長、地域の活性化に生かされるようなとりくみについて検討していきたい。

【研究の方向性】

- I 学校と地域との関わり方・連携の方策について
- II 学校・子どもたちが地域の人々とのつながりを生み出す実践
- III 研究の成果の共有（情報の発信も視野に入れながら）

2. 研究内容・方法

- ・部員によるレポート報告をもとに討議し、研究を深める。
各自、各校の実践を通して、子どもたちの変容の様子、問題点、悩みなどを提案し、討議する。
- ・保護者・地域との連携について、授業実践(2回)を通して、研究を深める。
- ・常任講師の先生方には、常時ご助言・ご指導をいただくとともに、保護者・地域との関わりや連携について情報提供していただく。
- ・夏季学習会では、郷土に関わる施設等の隣地研修を通して、研究を深める。

3. 研究組織

部 長	那須 美佳 (牧一小)		
副 部 長	竹川 きよみ (岩手小)	新海 小緒里 (勝沼小)	
世話人	竹川 和彦 (日下部小)	三枝 孝太郎 (牧一小)	
常任講師	筑野 一彦 (東雲小)	有野 正樹 (大和小)	
研究メンバー	長沼 薫 (山梨小)	古屋 雅章 (八幡小)	倉田 和美 (牧一小)
	竹川 由美子 (三富小)	加々美 教子 (三富小)	堀内 友貴 (三富小)
	飯室 美華 (神金小)	吉岡 美奈子 (玉宮小)	中村 直人 (井尻小)
	小川 洋子 (勝沼小)	新藤 徹 (祝小)	渡辺 尚英 (東雲小)

4. 年間計画

	月 日	会 場	司会・記録	内 容
1	5. 7	山梨北中		研究テーマ・研究内容・方法の決定
2	5. 21	牧一小	三富・玉宮	年間計画・授業者の決定, 春季教研の報告
3	6. 4	牧一小	岩手・牧一	発表: 八幡小・玉宮小
4	8. 4	牧一小	神金・祝	夏季学習会 授業案検討: 井尻小 発表: 牧一小 地域素材学習会 (臨地研修)
5	8. 29	井尻小	八幡・東雲	統一授業研 井尻小 中村先生
6	10. 1	山梨北中	玉宮・山梨	秋季教研 発表: 祝小・岩手小・三富小
7	10. 26	牧一小	牧一・三富	発表: 神金小・勝沼小・東雲小
8	1. 14	牧一小	祝・井尻	授業案検討: 山梨小
9	2. 4	山梨小	東雲・神金	統一授業研 山梨小 長沼先生
10	2. 18	山梨北中	勝沼・八幡	冬季教研 2014年度 研究のまとめ

5. これまでの研究の歩み

【第1回 5月7日】研究テーマ・研究内容・方法の決定

【第2回 5月21日】年間計画, 授業者の決定, 春季教研の報告

【第3回 6月4日】実践発表 (八幡小・玉宮小)

- ・有価物回収, 図書ボランティア, セーフティーパトロール, 西保せぎの案内,
- ・地域教材関連表の紹介, 米作りの学習への協力

【第4回 8月4日】統一授業研究の授業案検討 実践発表 (牧一小) 臨地研修

- ・授業案検討「わたしたちの生活と食料生産」 井尻小 中村直人先生
- ・葉ボタンの栽培と配布など, 地域の方々を招いての子ども祭, 地域の高齢者との交流
- ・地域素材学習会 (勝沼中央公民館より講師を招いて宮光園・大日影遊歩道での研修)

【第5回 8月29日】統一授業研 研究授業 井尻小 中村直人先生

【第6回 10月1日】実践発表 (祝小・岩手小・三富小)

- ・ブドウ作りの体験, 地域産業のワインづくりについての学習
- ・スナッグゴルフの実践, 笛吹童太鼓, 公民館活動「福祉のつどい」への参加など
- ・地域住民が企画運営する「世代間ふれ合い活動」, ふれ合い給食, 太鼓演奏

II 実践報告

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

指導者 甲州市立井尻小学校

中村 直人

1. 単元名 私たちの生活と食料生産

「山梨の大雪災害から学ぶ ～井尻地区の食料について考えよう～」

2. 単元について

2月14, 15日, 山梨県全域は, 歴史的な大雪に見舞われた。16日の朝刊では『記録的積雪甲府114センチ』(山梨日日新聞)と大きな見出しで報じられた。国道・鉄道網は遮断され, 車は身動きがとれなくなり, 家から出ることすらできなくなった地域もある。県外へと通じる道路はほぼ遮断。16日には, 36路線43カ所が通交止めになった。鉄道への被害も大きく, 県内を走る鉄道路線はすべて数日間運休止, まさに『陸の孤島』(17日同新聞)と化してしまった。マスメディアは, 連日大雪での被害状況, 道路状況, 食料の入荷状況等を事細かく伝えていた。職場から数日間, 帰宅できなかった人がいたり, 職場や学校に行くことすらできない状態が続いた。また, 山梨有数のブドウ産地である峡東地域では, ブドウ農家の7～8割のビニールハウスが雪の重みで潰されるという甚大な被害となった。

その間, 食料の陸路は完全に断たれ, ヘリコプターなどの空路に頼らざるを得ないような状況も出てきた。16日には, 山梨県内のスーパー等などは食料品を買いだめする買い物客で混雑し, スーパーやコンビニには長蛇の列ができ, 陳列棚から食品が姿を消した店舗も珍しくなかった。

本校のある甲州市井尻地区も, 大雪の影響は大きかった。学校は3日間休校になり, 校区の道路は車が通れず, 除雪した雪は置き場所がなく道路脇に積まれ, 徒歩での移動すらままならないような状態が何日間も続いた。自治体からの要請で, 地域の建設業者などが連日除雪作業を行っていたが, とても間に合わず, 近くを通る国道ですら2車線が復旧したのは4, 5日後のことであった。

山梨での自然災害として, 県民の多くが想定していたのは, 東海地震であったり, 富士山の噴火であったり, 大雨による河川の増水であったのかもしれない。今まで経験したことのない大雪により, これほどの被害が出るとは多くの人が予想していなかった, まさに想定外の出来事であった。この大雪災害に驚いたのは大人だけではなく, 児童にとっても強く頭に焼き付いた体験であったはずである。子ども自身も, その雪の量に驚き, 被害についての詳しい知識はなかったにしても強く印象に残っているはずである。

そこで本単元では, 児童が実際に大雪時に体験したことを基に, 「食物」の流れに焦点を当て, 調べ学習をすすめる。まず単元の導入段階では, 2月の大雪の様子について写真や大雪を報じた1週間分の新聞(15～21日同新聞の一面は全て大雪関連の記事)等を見せ, 当時のことを思い出させる。そして, ウェビングにより家庭での食事の様子について書き出し, それを基に, 友だちとの意見交換を行う。その後, 保護者にお願いし, それぞれの家庭の食事の様子についてのアンケートを行い, より具体的な情報を得ることで児童の関心を高める。更に近所や, 親戚, 他学年の児童など, 身近な人にインタビュー活動を行い, 調べ活動を広げていく。大雪時に, 井尻地区では食料に関して困った人はどのくらいいたのか, どんな苦労があったのか, また, 商店の様子はどうだったのか, 興味を持たせながら学習を進めたい。次に, アンケートで明らかになった,

災害時に多くの人を訪れた地域の商店の一つであるコンビニエンスストアの経営者を招いて、大雪時の様子についてお話を伺う。「なぜ食物が足りなくなってしまったのか」「様々な食品の仕入れはどのようにしていたのか」「お客さんの様子はどうだったのか」「何が一番売れたのか」など、子どもたちがいまだ素朴な疑問について現場で直接関わった人を交えた学習により、更に子どもの興味・関心が膨らむのではないかと期待している。大雪の時の食料不足に目を向けさせることで、自分の家で日常的に食べている食料が、どのようなルートで運ばれてきているのかを知り、考えを深めさせたい。また、子どもが家庭で調べたり、地域に出て行って地域の人と触れあうフィールドワークを通して学びを広げていきたい。

学習を進める上で、児童の興味・関心に基づく課題を取り上げ、学習活動を行うことは重要なことである。しかし、探求的な学習として、学習の質的高まりが期待できるかどうかを教員が判断し、指導していくことが求められる。たとえ児童の選んだ課題であっても、総合的な学習にふさわしくない内容や、十分な成果が得られないと考えられる場合には、適切な指導を行うようにしたい。また、探求活動の過程において、互いに教え合い、学び合う活動や、地域の人との意見交換や交流活動など他者と協力して課題を解決しようとする学習活動を大切にしたい。

〔児童について〕

男子5名、女子16名の合計21名のクラスである。2名の男子児童が、特別支援学級から通級している。男女の仲も良く、困ったときには助け合うことができる優しい児童が多い。女子の人数が多いせいか、女子のペースで物事がすすむこともある。男子も女子もいくつかの小グループに分かれ、それぞれのグループに自分の居場所を見つけているようである。基礎的な学習内容が定着していない児童がおり、T.T.を効果的に活用したり、掲示物や板書を大きく見やすくしたりするなど、その児童が理解しやすい方法を考えながら指導している。

〔保護者・地域住民との連携の視点から〕

大雪による食料については、保護者や地域住民にとっても一大事であったはずである。まずは子どもの目線から感じるさまざまな疑問について探求させたい。保護者にも協力を依頼し、アンケートに答えてもらえたことは、多くの新しい情報が得られただけでなく、子どもにとっても、興味・関心を高めるために効果があった。また、インタビューの項目を考え、実際にインタビュー活動を行ったことは、学習への自主性・主体性を身につける上で効果的であった。調べたい商店に手紙を書いた班があったが、自分たちの知らなかった多くの情報を得ることができた。

本校の児童の実態と、地域や学校の実態を考えたとき、学校と地域の連携の絆を深め、より効果的な学習を仕組むために、「子どもの学びを、保護者・地域住民と共に創り上げる」という視点がとても重要に思えた。授業の目標を達成し、子どもの学びをより広げ、深めるために、保護者や地域の方との関係を築き、授業を創っていく。そこで生まれた連携は、さまざまな教育活動にも生きてくるはずである。例えば、家庭学習の習慣化に向けての支援、学習への動機付け、生徒指導・安全指導、学校行事への積極的な協力などである。

教員は、地域の商店に出向き、打合せを行った。ゲストティーチャーには、授業のねらいと流れ等についてできるだけ具体的に伝えるようにした。教員自身が地域の様子について知り、地域の人と関わりを持つことも「学校を開く」「学びを開く」上でとても大切なことであると実感した。

学校での学びの様子が、地域、保護者にも見えるようにしていきたい。子どもたちが地域への発信のためにまとめた新聞等を見て「学校ではこんなことを学んでいるんだ」「またインタビュ

一に来たら協力してあげよう」と感じてもらえるような学習活動を仕組みたい。学校、保護者、地域の中に『学びの一体感』のようなものが生まれたら嬉しく思う。

□ゲストティーチャー

- ・保護者 フーズマーケットおかじま七日市場店勤務
- ・セブンイレブン塩山三日市場店 オーナーAさん・・・・・・・・・・本時

□手紙でのお願い

- ・グディーズナカヤ三日市場店 店長さん ・オギノ甲州店 店長さん
- ・フーズマーケットおかじま七日市場店 店長さん

3. 単元の目標

大雪災害時の食料不足の体験をもとに調べ学習を行い、地域における食料流通の現状や問題について理解し、災害時の食料問題に対応する方法について考え、地域に向けて発信する。

4. 単元で育てようとする資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

- ①問題状況の中から課題を設定する。 ②手段を選択し、情報を収集する。
- ③相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現する。

【自分自身に関すること】

- ④目標を設定し、課題の解決に向けて行動する。

【他者や社会とのかかわりに関すること】

- ⑤自分と異なる意見や考えを受け入れる。 ⑥地域の方との交流を通して、考えを深める。

5. 単元で学ぶ内容

- ①災害時における家庭・地域での食料について
- ②地域における食料の流通経路について
- ③災害時の食料問題への対応について

6. 単元の評価規準

評価の 観点	学習方法		自分自身	他者や社会とのかかわり
	課題設定	学び方・考え方	主体性・創造性・協同性	生き方
評価規準	ウェビングを使って大雪時の食料問題について関心を持ち、自分なりの課題を設定している。	大雪時の地域の状況を知るために、目的や相手に応じて、調査方法、記録の仕方などに留意しながら調べている。	自分なりの調査方法を考え、自発的にとりくもうとしている。 友だちと協力して調べ学習を進める中で、友だちのよさを認め、自分のよさや自分の活動を見つめようとしている。	調べ学習を進める中で、他の児童や地域の方の考えや意見などを積極的に取り入れたり、参考にしたりしている。
	4-①	4-②,③	4-④	4-⑤,⑥
	5-①	5-①,②,③	5-①,②,③	5-①,②,

7. 単元の指導計画 (全20時間)

課=課題設定, 学=学び方・考え方, 主=主体性・創造性・協同性, 生=生き方

小単元名(時数)	主な学習活動	評価規準(評価方法)
1 大雪の時のことを思い出そう (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 大雪の日のことについて思い出し, 友だちと意見を交流する。 大雪の時の新聞や写真を見たり, その記事を読むことで興味・関心を膨らませる。 大雪の時の, 自分の家の食料について考える。 大雪時の食料について, ウェビング図を活用し, できるだけ多くの考えを出し, その中から想像できる課題について発表する。 	課 ・制作物による評価 (ウェビング図)
2 自分の家の様子を聞いてみよう (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> クラス全体で探求していききたいことについて, KJ法的な手法を用いて焦点化する。 焦点化されたものについて, 各家庭でアンケート調査を行い情報を収集する。 ウェビング図や家庭からのアンケート結果を参考にしながら, グループの課題を設定する。 大雪時の食料について現状を調べるための調査内容・方法について話し合う。 	課 ・観察による評価(行動観察)
3 地域の人から話を聞こう (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 近くのスーパーに勤めている保護者を招き, 大雪時のスーパーの様子について話を聞く。 大雪の時のことについて更に調べたいことなどについて話し合う。 グループでインタビューする内容を話し合い, 近所の人や身近な人を訪ね, インタビューする。 地域の店に手紙を出して, 大雪時の店の様子について教えてもらう。 店の人を招いて, 大雪時の店の様子について話を聞く。・・・・・・(本時) ※インタビューについては, 家庭学習として時間外に行う。	学 ・観察による評価(行動観察) 主 ・制作物による評価 (インタビュー記録用紙) ・観察による評価(行動観察) 生 ・制作物による評価 (ワークシート)
4 これまでの学習を振り返ろう (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことを, グループで協力しながらまとめる。 自分たちの調べたり, 考えたり, 感じたことを発表会で交流する。 	主 ・制作物による評価(発表作品) ・観察による評価(行動観察) 生

5 自分たちの考えを地域に広げよう(4時間)	・自分たちが調べたり，考えたり，感じたことから，地域の人に伝えたいことをまとめ，発信する。	主 生	・制作物による評価(発表作品)
------------------------	-----------------------------------------------	-----	-----------------

8. 本時の学習

- (1) 日時 2014年8月29日(金) 5時限 14:00～14:45
- (2) 場所 井尻小学校 5学年教室
- (3) 題材名 「大雪の時のお店の様子について知ろう」
- (4) 目標 ①地域の方の話を聞き，大雪災害時の店の様子や販売する側の苦勞・工夫や思いについて知る。
②地域の方との交流を通して，大雪時の食料流通について考えを深める。

(5) 展開

過程	学習活動	活動上の支援(○評価)	備考
導入 5分	1. 前時までの学習内容を振り返り，本時の学習内容を確認する。 大雪災害時のお店の様子について調べよう。	・大雪時の資料を見せ，関心をもたせる。 ・本時のめあての確認と，ゲストティーチャーの紹介をする。	新聞・写真
展開 35分	2. Aさんのお話を聞く。 ・自分が疑問に思ったことと比べながら聞く。 ・話を聞いてわかったことを記録する。 ・更に知りたいことを質問する。 3. Aさんの話を聞いて，自分たちで調べたことと比べながら，質問・意見をグループでまとめる。 4. 全体で意見を交流しながら，Aさんからもお話をうかがう。 ・食料販売の仕事をしているAさんの思いについて考える。	・他のお店からの情報をもとに事前に疑問点を考えさせる。 ・Aさんから質問を投げかける場面を設定する。 ・更に知りたいことについてグループで話し合わせる。 ・友だちの気付きや考えを発表し合うことで自らの考えを深められるように支援する。 ・Aさんが，井尻小の児童に望んでいる事を伝えてもらう。 ○他の児童や地域の方の考えや意見などを積極的に取り入れたり，参考にしたりしている。	他の店の情報(手紙) 座席表 ワークシート (行動観察・ワークシート)
まとめ 5分	5. 学習のまとめをする。 6. 次時の予告をする。	・本時の学習で分かったこと，気付いたこと，感じたことなどをワークシートに書かせる。 ・鶴田さんから教えていただいたことをもとに，グループごとにまとめていくことを伝える。	ワークシート

9. 研究協議から

(1) 授業者の反省

- ・ゲストティーチャーが話す時間を十分確保できるように、授業の流れを考えた。
- ・大雪の時の食料不足について、子ども自身がもつ課題意識がどの程度深まったか。
- ・グループ毎に話し合わせ、意見を交流する場面では、意図した通りに意見が出せた。
- ・自分の考えを、友だち・ゲストティーチャーの話とつなげて考える部分が弱かった。考えを交流させ、深める工夫が必要だった。
- ・前時までの授業にとりくむ様子から、児童の探求意欲は高かったと思う。

(2) 質疑

質 問：児童は事前に調べてみたいことはつかんでいたのか。児童が手紙を送り、調べた内容と、今日のゲストティーチャーの話との違いはあったのか。

授業者：保護者アンケートを基に、大雪の時に買い物に行ったオギノ、おかじま、ナカヤに手紙を書いた。3店から得られた情報を全て印刷し児童に配布し、拡大コピーしたものを示し、内容について共有化する時間をとった。それを基に、今日の質問項目を考えさせた。

質 問：展開の3に「調べたことを比べながら」質問・意見をまとめるとあるが、教員の構想は。

授業者：自分たちがこれまでの学習で学んだこと、知っていることと比較しながら、まとめられたらよいと考えた。

質 問：前回保護者からスーパーの様子を聞いた時と、今回の児童の変化は。

授業者：(保護者が勤める) おかじまでは「点数売り」を行ったという話を聞いたが、今回それに関する質問が出されたことはよかった。

関 連：臨時休業、レジは混んだかなどの児童の質問から、前回のスーパーの学習が活かされていたと感じた。

(3) 討議

□本時の学習について

- ・様々な話を聞くことにより、食料流通だけでなく、様々な物の話が出されたが、これまでの学習を踏まえたものであった。
- ・その後の対応についての投げかけがなかったが「これから〇〇した方がよい」という意見が児童から出ていたのは良かった。
- ・コンビニとスーパーの違いがあるのではないかと。地域のお店はお年寄りに配達できない。コンビニは今は「近くて便利」、昔は「開いてて良かった」という宣伝文句。コンビニは定価で売っているがスーパーは違う。
- ・コンビニのコンセプト等がよく分かった。

□Aさんの話について

- ・Aさんの話はとても上手だった。事前に伝えておいた児童からの質問に対して、全てを網羅するような明瞭な話だったので、更に聞き返す必要がなかったのかもしれない。意見の交流をするには、全て話してもらわない方が質問しやすいということもあるのではないかと。

- ・ Aさんの話の中には、店員としての話、店長としての話、人間としての話が含まれていた。コンビニは商品がなくても店を開けておく、高校生の挨拶に関するお話等。
- ・ 児童は、今日の話から流通に関する多くのことを学んだ学習だった。
- ・ このコンビニは、足が思うように使えない時だからこそ、近所の人が行くことができた、数少ない地域の商店だった。
- ・ 普段、店に来る小・中・高校生の様子を見ているAさんの思いがあった。

□部会のテーマに関わって

- ・ 複数のゲストティーチャーから学ぶ機会がある内容で、本部会の成果であった。
- ・ 流通からの話だったが、防災からの共助等にもつながり、広がる内容だと思う。

(4) 指導・助言

- ・ 大雪のことを取り上げたところに意義がある。
- ・ 流通・防災、地域等、広く考えさせることができるテーマである。
- ・ 児童は1回の質問の答えを知るに止まらず、話を聞いて更に質問が出たことから、児童にとって学びの多いものだった。
- ・ 食料だけでなく、多くのことを知ることができる学習だった。
- ・ 地域から学んで地域へ返していくのが今の学習。児童自身が地域とつながっていく学習になった。

Ⅲ 成果と課題

- 保護者・地域とどのように連携していくことが、子どもたちのゆたかな学びにつながるのか、各校の実践について討議し、連携の可能性について理解を深めることができた。
- 保護者・地域との連携を、具体的にどのように授業に生かしていったらよいのか、協働研究として知恵を出し合う中で、授業案を作成・検討し、検証授業にとりくむことができた。
- 保護者へのアンケート、地域の方へのインタビュー、他学年へのアンケート、2人のゲストティーチャーのお話、3人の店長さんへの手紙によるアンケートなど、さまざまな調べ学習は、子どもたちの学習への意欲を高め、内容を深めることにつながった。
- 大雪災害時の食料不足の様子についての調べ学習を通して、家族、地域の人、店の人など多くの人と関わりながら学習にとりくませることができた。学習後にも地域の人との関わりが見られた。地域の人と触れあう機会を作ることは大切だと改めて感じた。
- 調べたことをまとめたり、発表したりする活動を通して、友だち同士で協力しながら学び合うことができた。
- 調べたことを、地域や保護者に向けて発信することで、更に学習が深まった。
- 授業の目標達成に向けて、保護者・地域との連携をどう生かしていくことが有効か、という視点を常にもちながら研究を進めたい。

